午後１時30分　開始

【秘書広報課長補佐】　お待たせをいたしました。

定例の時間となりましたので、ただいまより平成26年10月の市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元に配付をさせております次第のとおり、まず事業発表を６項目させていただきます。ご質問につきましては、この事業発表の項目からお受けいたしたいと思います。その後に３番目のフリーの質疑応答へと進行したいと思います。終了は14時30分を予定しておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いします。

【市長】　それでは１０月の会見ということで、１日はようございますけれども、私の都合で早くさせていただきました。議会のほうも昨日終了したわけでございますけれども、この議会中にも御嶽山のほうで大変な噴火があったということ。多くの皆さん方が犠牲になられました。大変残念でありますし、心からお悔やみを申し上げたい、このように存じます。また、まだ救出をされていない方もいるようでございますので、全力で救出をしていただくように願っているところでございます。なかなか自然災害というのは予知も難しゅうございますし、また気象状況についてもこれから何が起こるかわからないという状況でございますので、私どもも防災訓練等々を通じながら市民の皆さん方の安心、安全のためにこれからも頑張っていきたい、このように思っておるところでございます。

それでは、座りまして発表させていただきます。

まず１点目、赤レンガ倉庫、レストラン館のほうでありますけれども、出店者を募集したいというふうに思っております。やはりレストラン部門というのは非常に集客にとって大事な部門でございますので、指定管理をしました株式会社丹青社で募集をする予定でございますけれども、私ども市としてもしっかり関与しながらいいお店が来ていただくように努力をしたい、このように思っております。日程等々につきましては、皆さん方のお手元に配ってあるとおりでございますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、私、きょう出発しなくてはならんのですけれども、ドイツのほうで開催をされます欧州の原子力関連施設が立地をする自治体の会議、これはＧＭＦというそうでございますけれども、そこの皆さん方から、昨年その皆さん方の一部が敦賀に来られまして、その際にぜひ出席をいただいていろいろお話をしていただきたいということで招聘を受けましたので、この会議に出席することを主の目的として行ってまいりたい、このように思っておるところでございます。

また、あわせて人道の港敦賀に関しますリトアニアのほうの訪問、またポーランド孤児に関しますポーランド、またフランスのほうでは原子力関連でいろいろ関係がございますのでそういう関係者との懇談を含めて、日程等につきましては、そこに記載のとおりでございますけれどもかなりタイトな日程で、飛行機も６回ぐらい乗らなくてはならんというようなことでございますが、体に気をつけて行ってまいりたい、このように思っているところであります。

続きまして、つるが観光物産フェア2014でございます。これも恒例でございますけれども、今回は舞若道の全線開通ということを記念いたしまして、昼夜２部構成で10月24日から26日、これは金、土、日でありますけれども開催をさせていただきたい、このように思います。内容等々につきましては、特に夜の部のほうではレーザー、そしてダンスステージなどを設けましてファンタジーショーなども実施をしたい、このように思っています。敦賀市出身の濱頭優さんというのはタレントさんでいらっしゃいますけれども、その方が所属するユニット、キャンディボイスというユニットだそうでございますけれども、そういう皆さん方、また県内いろんなところで活躍をしておりますミュージシャンによりますライブイベントなども開催をする予定でございます。多くの皆さん方に来ていただきたい、このように思っております。

それと、敦賀みなとフェア2014、これもイベントとして開催をいたします。特に港都つるが、これを知っていただこうということでありまして、フェリーターミナルで10月の13日、１日でありますけれども開催を予定をいたしておるところであります。内容等々につ

きましては、そこに記載のとおりでございますので、よろしくお願いをしたい、このように存じます。
　続きまして、教育フェア2014敦賀、「ふるさとに学び未来へつなげよう」というテーマの中で開催をします。今回で３回目になるわけでございますけれども、教育についていろいろと皆さん方により一層の関心を持っていただくということで、１回、２回もかなり成果が上がったというふうに私ども思っておりますし、教育委員会を中心として教育フェア実行委員会の皆さん方によって開催をいただきます。
　お手元のほうにチラシに細かいことが書いてございますが、特に俳句とのかかわりということで、俳人の黛まどかさんがお見えになりまして、いろいろと講演などもいただきたい、このように思っておるところでございます。
　続きまして、第35回敦賀マラソン大会であります。これももう35回目を迎えるわけでございますけれども、これも舞若道開通ということでございまして、ゲストランナー、ご承知の弘山晴美さんが来ていただきまして、ゲストランナーとして走っていただきますとともに講演なども行っていただく予定でございます。ただ残念なことに人数が少しまだ昨年よりも2.5％、99名でありますけれども減っておるところでございまして、やはりもう少し参加者がふえるといいなというふうに思っておるところでございますが、これも少子化の影響があるのかもしれません。この人数で、あとはお天気を期待しながら皆さん方に楽しんでいただきたい、このように思っておるところであります。
　発表項目は以上であります。
【秘書広報課長補佐】　ありがとうございました。
　それでは、ただいま発表させていただきました６項目の事業発表からご質問を承りたいと思います。
　まず、幹事社様のほう、何かございましたらどうぞ。
【記者】　欧州訪問について２点お伺いしたいんですけれども、まず１点目が、現地に行かれて、こちらのＰＲであるとか情報交換などを行うということですけれども、こちら帰ってきてから欧州訪問のことをどのように生かしていかれるのかというのを具体的に何か決まっていたら教えてもらえれば。
【市長】　特にリトアニアのほうのカウナスのほうに行ってまいります。私も実は13年前に訪問させていただきました。13年ぶりではございますけれども、特に杉原千畝さんがビザを発給したという旧領事館跡がございまして、そこへの訪問。そしてまた例えば私どももその後に、私そこへ行った後にムゼウムを、今敦賀にありますムゼウムを開館いたしておりますし、いろんな資料などの例えば交換でありますとか、また新しい資料などももしご提供いただけるものがあればいただいてきて、そういうものをまたこちらで展示をしたりしたいというふうに思っています。
　それと１点、かなりあちらの領事館の跡も古うございまして、傷みが激しいという情報をいただいています。一度見させていただいて、恐らくこれは八百津町との関係もございますけれども、やはり関連の自治体として何らかで応援ができたらなということも考えておりますし、例えば募金、領事館を何とか修復しようよという募金なども敦賀のほうから全国にもし発信できればしていって、少しでも協力ができたらなという、そういうこともぜひ話し合ってきたいなというふうに思っておるところでございます。
【記者】　わかりました。もう１点。
　以前、一部報道で、フィンランドの最終処分場のオンカロに行かれるということを調整されていたかと思うんですけれども、行けなくなった理由というのを教えてもらえますか。
【市長】　特にオンカロについては、ぜひ私ども、せっかくの機会でありますし、やはり私ども全原協としても最終処分場については非常に関心もございますから行きたかったんですが、ちょうど工事中に入るという期間に当たりまして、中へは全く入れないという情報がございました。外から見ているだけはいいらしいんですが、それではかなり実は僻地にございまして、日程をかけてかなりの日数を費やしてということでは不可能になりまして、大変残念だったんですけれども。その分、他のいろんなところを入れて、本当に短い日程の中で、特にフランスなども協力いただいて原子力関係の皆さん方との懇談もとるようになりましたので、オンカロへ行けなかった、工事中ということは非常に残念でありま

すが、いたし方ない、このように思っています。
【記者】　ありがとうございます。
【秘書広報課長補佐】　続きまして、幹事社様、何かございましたらどうぞ。
【記者】　ＧＭＦ会議のことでお尋ねします。日本の立地と原子力発電所のかかわりについて講演を行うと、市長はお話しされるようですけれども、もしよろしければ、その一部、どんなことをお話しされるのか、この場で開陳いただけるとありがたいんですが。
【市長】　特に私どもは全原協という日本での立地地域のこういう組織を持っておりますが、ＧＭＦはヨーロッパ全体の原子力を持っている地域、国を飛び越えた形で持っている組織でございます。要するに国が違いますから、日本のような全原協というわけにはいきませんが、原子力を持っている地域としていろんな活動をしておるようでございますが、やはり私ども全原協とは随分形態も違うということでありまして、私どもは日本の全原協の取り組み、国に対して、またそれの内容として安全対策でありますとかいろんなことを全原協として要望しながら、また交付金制度なども獲得をしながら運動してまいりましたが、ＧＭＦのほうでは全く形態が違うということで、日本の全原協の状況を説明をまずしていきたいなというふうに思っていますし、また向こうの詳細な組織の状況でありますとか、またそれぞれの各国が取り組んでおる状況などもぜひ学んできたい、このように思っているところでございます。
【記者】　既に情報交換をされているとは思うんですが、先方がこちらの日本の状況についてどんなところにご注目をされているのかということがわかればということ。
【市長】　実は昨年、何名か来敦されたのは皆さん方もご承知だというふうに思います。福井大学原子力工学研究所のほうで面談をしまして、少し意見交換を行いましたけれども、やはり交付金制度につきましては非常に関心を持っておられました。全くそういうものはないということでありますので、そういう細かいシステムなどについても少しお話をしてこようかなと。
　ただ、国を向こうは飛び越えておりますから、そのあたりＥＵの組織の中で取り組むのかどうかというのは、まだちょっと私どもわかりませんが、私どもの取り組みが向こうのＧＭＦの何かの参考になればなというふうに思いながら、細かいいろんな状況なども提供してきたいなというふうに思っています。
【秘書広報課長補佐】　それでは、各社お伺いいたします。事業発表の項目につきましてご質問ございましたら挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。
【記者】　欧州訪問なんですが、同行メンバーを教えていただけますか。どのような方。民間からも行かれるんでしょうか。
【市長】　ＧＭＦのほうの会議のほうは、同じく講演依頼を受けております福井原子力工学研究所の安田教授が行かれますし、随行としては、うちの原子力安全対策課長、それと西浦特任部長、また国際交流関係では国際交流貿易課の織田課長が行きます。以上のメンバーであります。飛行機とか向こうで待ち合わせをするとか、ほとんど全部で行動するということはありません。原子力安全対策課長はＧＭＦの会議が終わったら帰りますし、私はポーランド、そしてリトアニア、フランスというふうに渡って帰ってまいります。
【記者】　カウナスでの老朽化が進んでいるという形なんですけれども、今、所有者はどうなっているんでしょうか。現地の旧日本領事館は。
【市長】　私も13年前行きまして、そのときにお話を聞いたのかもしれんのですけれども忘れております。恐らく財団的な方が財団として管理。個人ではないというふうに思います。そのあたりも今度訪問しまして状況を聞いて、どういうような形で老朽化の話とか。恐らく実は資金面は想像なんですけれども、ぜひお話を聞いていただきたいというふうに向こうの方は言われておりますので、そういうところで、どなたが所有、どういう形というのは、また改めてしっかり聞いてまいります。
【記者】　リトアニアがそうだとは言いませんけれども、第三世界、東欧諸国は、お金がいつの間にかどこかへ消えちゃったということがままあるものですから、途中で。その辺の管理体制、資金体制をしっかりしないと募金が無駄にもなりかねないので、ちょっとその辺は担当課長の方にきちんと資料を取り寄せていただけたらと思います。
【市長】　大変ありがたいご忠告ありがとうございました。なかなか外国でありますから、

せっかくの善意が変な形になると大変でありますから、そのあたりしっかり調査をして、現地へ担当課長も行きますので、あわせてしっかり確認をしてまいります。
【記者】　赤レンガ倉庫の出店者をあしたから募集し始めるということなんですけれども、来年の秋にオープンして、敦賀の観光の起爆剤というふうに市長も期待されていて、先ほども集客が非常に大事だというふうにおっしゃっていたと思うんですけれども、どういうふうなお店に来てもらいたいというふうにお考えですか。
【市長】　これから募集をしますので、どういう皆さんが来るかというのはわかりませんけれども、やはり全国的にこういうお店であればといういろんなお店もございますから、ある程度知名度があって、おいしい料理を提供していただき、注目をしていただけるようなお店が募集をしていただければ大変ありがたい、このようには思っております。
　それと、やはり私ども食材の非常に豊富な地域でありますから、地元の食材を上手に生かした、そういうような料理が提供していただけるところがあれば大変好ましいのではないかなというふうに思います。
【記者】　私も初めてなので、この機会にいろいろお聞きしておきたいんですが、敦賀赤レンガ倉庫、来年のオープンで年間どれぐらいの誘客を目指しているのか。
【理事 企画政策担当】　ジオラマ館のほうでいきますと、以前、議会等でご説明をさせていただいた今のところの予測ですが、年間８万人ぐらいというふうなところでございます。
【記者】　それは出店希望者にもその旨は伝えるわけですね。年間８万人の集客、誘客があるということは。
【理事 企画政策担当】　そこを目指しているという話はさせていただくことになると思います。整備計画がございますので、その整備計画を説明する中でそういったことも含まれております。
【記者】　数字は出しちゃっている、もう。応募のときに。その数字は。８万人という数字は。
【理事 企画政策担当】　いや、まだです。説明会ございますので、そのときに赤レンガ倉庫を見学していただきながら、赤レンガ倉庫整備計画の概要もそのときに説明をさせていただくということでございます。
【秘書広報課長補佐】　ほかにございませんでしょうか。
　それでは、フリーの質疑応答のほうへ移らせていただきます。これも幹事社様のほう、何かございましたらどうぞ。
【記者】　昨日、ＪＡＥＡ全体の検証委員会がありまして、ふげんの使用済燃料を再処理していた東海再処理施設、あそこが廃止されるということになったんですけれども、ふげんの燃料に関しては、一度５年間延長するというような経緯があり、今回持っていく場所がとりあえずなくなった。海外に、フランスにとは言っていますけれども、とりあえずなくなったということで、この件に関して、市長としてどのようなご意見をお持ちでしょうか。
【市長】　東海の再処理施設についての事情はあるわけでありまして、それについてはやむを得ないことであるというふうに思いますけれども、ふげんの廃止措置、これは非常に大事でありますので、その工程に影響が出ないような使用済燃料の搬出計画をしっかり立てていただかなければならないというふうに思っております。使用済燃料の搬出を含めまして、廃止措置の全体計画があるというふうに思うんですけれども、その全体計画の工程を早く示してもらいませんと私どももわかりませんので、ぜひそれを早急にやっていただきたい、このように思います。
【記者】　その件について、機構のしかるべき立場の人から今後説明を受けるということは予定されているんでしょうか。
【市長】　まだそういうふうな情報は入っていません。
【記者】　あと冒頭のご挨拶の中でもあったんですけれども、御嶽山の噴火に絡んで、市内の関係者であるとか市内在住の方が登られて連絡とれてないとかという情報はあるんでしょうか。
【市長】　今のところそういう情報は私どものところには入ってきていませんね。
【秘書広報課長補佐】　続きまして、幹事社様どうぞ。

【記者】　幹事社でございます。
　お聞きしたい話の前に、一つ、敦賀１号機のことをお聞きします。
　敦賀１号機が平成28年までの運転でしたか、というふうに後ろが決まっている中で、一旦再稼働させるのか、それから再稼働のための運転延長申請を出すのか、今いろいろと美浜の１、２号機と伴って瀬戸際にあるかと思います。敦賀１号機の今後の運転などについてのお考えがあれば、改めてお聞かせ願えますでしょうか。
【市長】　これはあくまでも事業者の皆さん方の決めることでございまして、確かに40年過ぎておりますが、50年、60年運転まで大丈夫だというような以前議論などもされておられましたので、そのあたりを含めてどういうような運転計画を立てていくかというのは事業者の方が立てて、それを私ども聞いて、どういうふうにするんだという、また地元としてはこういう思いがあるというお話をするべきでありまして、私どもとすれば、まず40年過ぎた炉というのは安全であればそれはいいですけれども、そのあたりまだ全く先が見えていませんので、今どうしたらどうすべきかなというのはお話しする立場にないというふうに思っています。
【記者】　では、続けてお尋ねします。
　河瀬市長と、それから塚本副市長に、お２人にお尋ねいたします。
　前回、９月１日の記者会見後、河瀬市長が来年の春の選挙にお出にならないということをお話ししてくださいました。その際、ご自身の後には塚本副市長がふさわしいのではないかというふうな事実上の後継を指名されました。
　１カ月ぐらいたちまして、９月議会も終わりました。その後どのようになっているか、まずは河瀬市長のほうからその後の状況をご説明願えますでしょうか。
【市長】　これは私のほうから塚本さんがいいんじゃないかというお話をした以降、塚本さんもいろいろお考えをいただいているというふうに思いますので、塚本さんは熟慮中だというふうにお伺いしておりますので、大変重要なことでありますので、ゆっくり考えていただいて、いい結論を出していただけたらありがたい、このように思っています。
【記者】　続けて、済みません。当事者である塚本副市長、この件について今どのように熟慮されていて、熟慮されているポイントはどこなのか、一般の市民の方にもわかりやすい形でお答えいただければ幸いです。
【塚本副市長】　今おおむね市長が言われたとおりでございます。９月１日にそういうような報道の前で市長が発言されましたし、私は少し時間が欲しいという中で、この１カ月、議会を挟みましたのでそれの対応をしながら関係者といろいろ話し合いをしてきましたが、現在の状況の中では少し私の出馬、不出馬を含めて、まだ自分の気持ちは固まってないというのが状況でございまして、いましばらく時間をいただきながら考えさせていただきたいというふうに思っております。
【秘書広報課長補佐】　よろしいでしょうか。
　それでは、各社ご質問ございましたら挙手をお願いいたします。
【記者】　今の副市長のお答えで、もうちょっとお聞きしたいんですけれども、１カ月間熟慮されているということですが、ちょうど９月１日の日にはそういうことをおっしゃっていましたけれども、１カ月というのは結構な時間がもう既にたっている。じゃ今後、副市長はどのようなタイミングで決断を下されることになるのか。何か思い描いている部分はあるんでしょうか。
【塚本副市長】　例えば期限的にあと１カ月ぐらいで考えるとかそういうようなお話かとも思いますけれども、少し中身を話しさせていただかざるを得ないなと思いますけれども、やはり私を支持していただいている方々にはいろんなご意見があるわけでございます。こういうメディアの前で余りプライベートなことは控えたいと思いますので、その点については触れませんけれども、私は私なりのいろんな事情がございます。そういった中で関係者とご相談させていただいているわけでございますけれども、その意見がなかなか集約されていないという状況でございます。
　ですから、いましばらくというのは非常に曖昧な言い方で申しわけないんですけれども、まさに、いましばらくお待ちいただきたいということでございます。
【記者】　今の件なんですが、通例こういう場合は議会で質問に答えて答弁するというの

が通常パターンなんですが、12月議会が大体一つの節目になると考えていいんですか。
【塚本副市長】　今回の場合は、いろいろマスコミ等でも報道されましたけれども、９月１日という比較的今言われるような感じの中では少し早い時期に、いろんな事情の中で市長も決断されて述べられたわけでございます。そういう中で、そういうことがなければ別に12月ということも常識的にはあるのかもしれませんが、敦賀には敦賀の事情がありまして、そういう非常に比較的前もった段階において市長のご決断があったということなんですよね。その点を考えれば、必ずしも議会で申し上げていかなければならないことでもないのかなというふうに思います。
【記者】　市長にお伺いしたいんですけれども、もんじゅについてお伺いします。
　機構が集中改革期間を延長して、来年の３月まで、ことしの11月に命令解除に向けた保全計画の見直し報告書であったり保安規程の変更を出す予定だと。３月までに命令解除を目指したいとおっしゃっているんですけれども、以前、規制委には、スケジュールありきではなくて自分たちのペースというか、きちんとしたものを出したい、出すべきだと言われているにもかかわらず、またスケジュールを組んで進めようとしているその姿勢について、どういうふうに感じられているのか教えてください。
【市長】　一つ目標を持つということは大事なことだというふうに思いますので、確かに私どももしっかり改革をやっていくことがまず一番重要なことで、そして当事者とすれば一つの目標を立てて、それを目標に努力していこうということでありますので、それがなかなか達成できなかったわけではございますけれども、目標を持ってやるということ自体は決して悪いことではないというふうに思います。ぜひその目標をしっかりクリアする、立てたものを確実に実行していくという、そのことが非常に重要だというふうに思っていますので、機構におかれては、しっかりそのことができるように最大の努力をしてほしいというふうに思います。
【記者】　続けてなんですけれども、以前、３月の保安検査で指摘あった際に、市長は堪忍袋の緒が切れかけているというふうにおっしゃっていたと思うんですけれども、次に例えばこういうふうに改革を改めて示して指摘などが見つかった場合は、堪忍袋の緒が切れちゃうんでしょうか。
【市長】　堪忍袋の太さにもよりますけれども、そのあたりはまずそういう、なったらどうなるということじゃなくて、やはりその時期、そのときに判断すべきことだというふうに思います。
【記者】　最後になんですけれども、マスコミ含めて報道等で機構の職員、もんじゅの職員がモチベーションが下がっているというようなことを市長おっしゃられるときがありますけれども、正直、この前の集中改革期間の延長のときも、当事者意識が欠けているというか、自分たちが指摘を受けてミスしているにもかかわらず何か自分たちのことじゃないように、反省していないような姿勢も見受けられて、モチベーションを下げたくはないんですけれども個人的にはそういうふうに思っていて、市長はどういうふうに報道を含めて捉えられたのか、お聞きしたいんですけれども。
【市長】　自分自身、機構の皆さん方がそういう当事者ということは私は思ってはおりませんし、記者の皆さんでそういうことを感じた人が記事にされて、それを見てがっくり来ているというような状況はあるかもしれませんが、それは記者の皆さん方が感じたことを書かれたことですので、そういうことを感じさせないようにしっかりと頑張ってほしい、このように思います。
【記者】　市長、済みません。また、もんじゅのことなんですが。
　先日の改革委員会のときに、要するにもんじゅの存在意義がエネルギー基本計画、国の計画によって位置づけられた。そのために動かしていかなければならないんだというようなお話をよくされるんです。もんじゅの皆さんは。当然そんなことはないんでしょうけれども、国の計画があるから優先してというか、そういうふうに動かしていかなければいけないという中で、安全を確実に確立させてから動かすという言葉が一度も聞けなかったのが私は非常に残念なんですけれども、そういった意味で、計画ありきであるとか、自分たちの責任を放棄して国の責任にしてやしないかとか、そういうことをお感じになるようなことはございませんでしょうか。

【市長】　今のお話の中で、計画があるからじゃなくて、安全を確認してというのは当然のことですから、口に出さなくても当然、安全を確認して国の計画で動かすということを当然のことだから言わなかったんじゃないかなというふうに私はあえて今思いますけれども。やはり基本的には、そういうこともしっかり口にされていけば誤解を招きませんので、ぜひそのような形で発言をしてほしいなというふうに思います。
【記者】　また来年の市長選の話に戻るんですけれども。
　先ほど市長は、塚本副市長にはゆっくり考えていい結論を出していただければいいというふうにおっしゃったと思うんです。恐らく僕が想像するに、市長が９月の時点で次期市長選に出馬しないという表明されたのは、河瀬市長路線を継承する方が次出てくる場合に十分な準備期間というか、選挙で戦えるような体制をつくって出馬に臨んでいただきたいからという、そういう思いもあったのではないかと思うんです。そういう中で、あの日に塚本副市長がいいのではないかとおっしゃられて、託されたような形なんですけれども。
　何が言いたいかといいますと、要は河瀬市長路線を継承する方が出馬を表明する時期というのは、どれくらいならば許容できるのか。それが12月で大丈夫なのか、もしくはもっと早くなくてはいけないと思っていらっしゃるのか。そのあたりちょっと教えてもらえますか。
【市長】　選挙というのは、なかなか日とかあれは何とも一概に言えないんですけれども、私の場合ですと実は４月の選挙に出ると言ったのは２月ですから、私の場合は。もう今から20年前の話ですけれども。そういうこともありますので、いつが適した日で、いつに言ったらいいというのは、なかなかはかりかねるというふうに思います。
　継承といいますけれども、僕は第６次総合計画、これは私初め理事者、そして議会の皆さん方、そして市民の代表の皆さん方としっかり練り上げてつくった計画ですから、それを着実に実行していただける。そのためには塚本さんは一緒にやってきた方ですから一番ふさわしいんじゃないかなというふうに思っております。
　そういう意味で、塚本さんは塚本さんで、先ほどお話ありましたように事情もありますので、しばらく熟慮するということでありますので、それは塚本さんにお任せして熟慮いただければいい、このように思いますので。それが日が何カ月でどうのということは全く次の選挙戦にはそう大きな影響はないと思います。出られる方がしっかりその後またサポートして、みんなで行けばいいことだというふうに思っています。
【記者】　河瀬市長の４月以降の計画は定まったのでしょうか。
【市長】　全く未定です。
【記者】　先ほど東海再処理施設が廃止されるという件で伺いたいんですけれども、市長はやむを得ないみたいなことを先ほどおっしゃったと思うんですけれども、機構は、かわりにフランス有力候補で海外で委託を考えているということで言っていたんですけれども、相手があることなので保管し続けるということも一つのオプションであるというふうに言っていたんですけれども、そういうずっと保管し続けるというふうなことになる場合を考えて、どういうふうに思いますか。
【市長】　私どもは、できればそういう使用済燃料等々はそういう施設から早く出してほしいということで常々全原協の立場でお話をしておりますので、速やかに、恐らくフランスしかないと思うんですけれども、のほうに早く契約ができて搬入をいただければいいなというふうに思います。
　処理施設が安全確認ができて稼働するのが一番いいんでしょうけれども、いろんな厳しい安全規制などをお話を聞きますとなかなか難しいということで、今回、処理ができないということに至ったんじゃないかというふうに思いますので、早くそういうような手続を踏んでいただいて処理をしていけばいいんじゃないかというふうに思います。
　また、ふげんのほうの燃料もそういう進みませんと、やはり廃炉に向かって支障が出ますので、そういう形で進めていただきたいなというふうに思います。
【記者】　いつまでに出してほしいというふうな希望はありますか。一応、廃止措置計画に、ふげんの使用済燃料の搬出時期は書いてあるけれども、計画なので、市長としては、ふげんの燃料はいつ、遅くてもこれぐらいまでには出してほしいなみたいな希望があったら。

【市長】　いつまで書いてあるというふうにちょっと今知らないんですけれども、これは計画がありますから、できるだけその計画のとおり搬出をしていただくのが一番いいというふうに思います。
【記者】　一方で、ふげんって廃止措置中なんですけれども、使用済燃料が466体プールに入っているということで、交付金の対象にもなっていて、敦賀市が毎年１億円余り交付金として入っていると思うんですけれども、本当に燃料を搬出したらそういう収入源がなくなってしまうんですけれども、そういうことは。そういうふうに前まで、廃炉まで交付金とか言っていましたけれども、結局それで収入は減ってしまうということも悩ましいかと思いますが、それについては何か新たにこういうふうに講じてほしいとか何か考えられているのか。
【市長】　今、特段考えておりませんけれども、私どもは使用済燃料というのは速やかにほかのほうに運んで処理をしてほしいなというふうに常々要望しておりますので。確かにずっとあって交付金が入ってくることはありがたいですけれども、そのあたりは計画どおり進めていただければ結構だと思います。
【記者】　９月議会で質問があって、アクアトムの活用法がちょっと前進したのか何のかわかりませんけれども、敦賀市と福井県が共同所有する方向で検討するというふうな話だったと思うんですが、現在、原子力機構に無償譲渡を申請する手続というのはどの辺まで行っているんでしょうか。
【塚本副市長】　それは現在まだ検討中の中で、申請する段階にまだ至っていません。その質問ということならば、今私が申し上げたところですね。
【記者】　来月中にも申請とか、どういうふうな感じなんですかね。今の道のりは。
【塚本副市長】　譲渡の問題は、いろんな地方自治法の問題がちょっと絡むものですから、ここの法的な解釈をしっかりやらないとそういう形にはならないと思います。
【記者】　じゃ、いつとははっきり言えないということですかね、申請する時期。
【塚本副市長】　今はそういうことを申し上げられる時期ではないと思います。
【記者】　それと、塚本副市長が答弁で、敦賀市の費用負担はゼロにするというふうに言われていた一方で、多少は負担するみたいなことも言われていたんですけれども、改めて費用負担に対する考えをお聞かせ願いたいです。
【塚本副市長】　今の質問はちょっと粗い質問だというふうに僕は思いますけれども、維持管理については将来365日の世界、あるいは10年後、20年後の取り壊しも含めて、数字上はゼロにしたいということを申し上げました。それから、今、記者が言われる負担が少し持つとかという話のことは、それは施設の中に県なり機構なりが入ってくる形になります。そして敦賀市もそれはゼロではないでしょうね。そういう中での移転費用あるいはリニューアルについては、多少のことは負担していかなければならない。負担するのが常識的であろうというふうに申し上げたんです。
【記者】　多少なりとも常識的に負担してゼロにするということは、どこかから収入を得るということなんですか。
【塚本副市長】　今申し上げたいのは、維持管理することとリニューアルでやる費用は、これはやっぱり別に考えないと。分けて考えるということでありまして、数字上ゼロというのは、あくまでも維持管理の問題です。初期投資は入ってないということです。
【記者】　たしか答弁では、大規模な敦賀市がそのためにリニューアルとかそういうことはしないけど、多少は出すというふうなことも。
【塚本副市長】　それもちょっと、僕の思いは、かなり記者の表現は正確ではないなというふうに思っていますけれども。
【記者】　別に額に応じず、初期投資費用に関しては多少は負担するということですか。
【塚本副市長】　おっしゃるとおりですね。
【記者】　敦賀市としては、具体的に活用方法を検討しているのかどうかというのは。
【塚本副市長】　検討は、しているかしていないかということになれば、していると思いますけれども、ここに皆さんに申し上げるようなクリアな状態にはなっていないということです。
【記者】　県の方は、収入と支出を相殺すれば数字上はゼロになるというのも一つの方法

というふうにおっしゃっていたんですけれども、敦賀市もそういうふうな方法を検討されているんでしょうか。
【塚本副市長】　今私が申し上げたところがそういった件も含めての発言でして、それは今記者が言われたことと余り矛盾はしないというふうに思います。
　ただ申し上げておきますが、この点は非常に細かいところまでどうかというところでわかってお話しさせていただかないと、少し乱暴な議論の中では誤解を招くような部分も出てくるのではないかと思います。ですから、もしそれを記事になさるのならば、かなりお互いが話し合って確認しながらやられたほうがいいかなと思います。
【記者】　原発、再稼働が見通せない中で、非常に重要な産業団地計画の進捗状況について伺いたいんですが。
【市長】　莇生野にあります産業団地については、かなりの会社と交渉中でありますので、私は議会でも言いましたように、私の任期中に形にしたい、このように思っています。
【秘書広報課長補佐】　ほかによろしいでしょうか。
　それでは、これをもちまして10月の市長定例記者会見を終了させていただきます。
　ご協力ありがとうございました。
【市長】　ありがとうございました。

午後２時16分　終了